



## 第26回 大阪市立小中学校事務研究大会 開催

9月19日（木）大阪市教育センターにて、第26回大阪市立小中学校事務研究大会を開催した。

開会行事では、会長あいさつのあと、大阪市教育委員会事務局、校長会、各関係研究団体のご来賓の方々を代表して、大阪市教育委員会事務局 学校経営管理センター 所長 森本 眞一 様、大阪市立中学校長会 会長 文田 英之 様、全国公立小中学校事務職員研究会 会長 鳥本 安博 様からご祝辞をいただいた。

その後、研究部より「財務運営サイクルの実践と検証について」と題し、研究発表を行った。次に、五名のパネリストをお招きし「大阪市の学校事務の現状とこれからのを考える」と題し、パネルディスカッションを行った。

最後に、大会実行委員長によるあいさつで閉会した。

### 研究発表

#### 「財務運営サイクルの実践と検証について」

#### 研究部

学校財務運営（以下、財務運営）は、学校経営ビジョンの実現に向け限られた予算を最大限に有効活用していくために必要不可欠なものである。市事研では昨年度より、学校経営の基盤の一つとなる財務運営に改めて着目し、各学校の諸条件や財務担当職員の経験年数の違い等にかかわらず、的確な意思形成のもと、適正かつ効果的な財務運営がすべての学校で標準的に行われることを目的として、平成13年度に発行し、平成20～21年度に一部改訂した「学校事務ハンドブック・財務運営編」（以下、ハンドブック）について、今の時代に即した内容へ改訂することをめざし研究を進めてきた。

昨年度の研究発表では、「これからの財務運営モデルについて」と題し、円滑な財務運営に向けどのような点に留意すべきか、また各学校の教育活動や管理運営活動と連動した財務運営サイクルの作成に向け必要な要素とは何か、考察してきた内容をまとめ提案を行った。そして今回は、「財務運営サイクルの実践と検証について」と題し、昨年度の研究発表以降、研究部内で作成した財務運営サイクル案や予算調書の様式案等を基に、研究部員がそれぞれの所属で実践に取り組み、その検証等から、より効果的かつ効率的な財務運営モデルに向け考察してきた研究成果を発表した。

#### ■財務運営サイクルの実践

昨年度の研究発表以降、研究部ではそれぞれの所属において財務運営サイクルの実践に取り組んできた。



実践報告では、これまで2月に予算調書の集約とヒアリングを行い、3月中旬に次年度の暫定的な予算執行計画を策定するといった財務運営スケジュールについて予算委員会で見直しを提案し、例年と比べ時期を半月程度早めることで財務運営がより円滑に進むよう取り組んだことや、予算委員会の運営について学校間連携グループでの助言を基に校長に相談し、構成メンバーを見直すことで会議の効率化につなげたことなどを紹介した。

### ■実践の解説と検証

実践においては、これまでハンドブックに掲載されていた年間サイクル編を基に、会議回数の削減や業務の効率化を意識し、また今の時代に即した財務運営サイクルの検討にあたっては、教育を取り巻く状況を基に、①予算調書の集約における効率化、②予算執行計画の策定方法、③予算委員会の開催時期や進め方、これら三つの視点を意識して改善に向けた取組を行った。

時 期	財務運営に関する主な流れ	
4 月		予算調書（修正用）を配付、集約、予算執行計画案を作成
5 月	予算委員会	前年度決算報告、予算執行計画を策定
6 月		予算執行計画書を基に予算更正
7・8 月		備品棚卸し実施
9 月		備品棚卸し結果を説明
10 月	予算委員会	中間決算報告 予算執行計画書を修正 次年度予算編成に向け予算編成方針等を確認、予算調書配付
11 月		修正した予算執行計画書を基に予算更正
12 月		予算調書を集約し、ヒアリングによる調整
1 月	予算委員会	次年度の暫定的な予算執行計画を策定
2 月		仮決算書作成
3 月		次年度に向けた準備事務

### ■考察のまとめ

平成 21 年度のハンドブック改訂から約 10 年が経過し、業務改善や長時間労働の是正等に向け学校の組織運営体制のあり方が問われるなか、予算委員会をはじめとする財務関係委員会においてもより効果的で効率的なメンバー構成や運営方法について検討し、今の時代に即した形へと改善を図る必要がある。今の時代に即した財務運営とするためには、これまでのハンドブックがめざす方向としてきた適正かつ効果的な財務運営に加え、業務量の増加や学校における働き方改革等を背景に効率的であることが求められており、ヒアリング等の事前準備によって会議内容を精査することや、予算調書等の様式変更によって重点事項を明確にすること、校務支援パソコン等を活用して検討事項を事前に情報共有するといった取組により、予算委員会等の回数や時間を削減することも必要となる。約半数の学校で学校事務職員が単数配置となっている状況のなか、経験年数の違い等にかかわらず、適正かつ効果的で、効率的な財務運営を行っていくためには、学校間連携による育成や情報共有が重要となっている。学校間連携グループ会議で予算執行状況を互いに確認することで、所属での財務運営を客観的に見直すきっかけになるとともに、予算執行計画策定の段階においては、個々の学校事務職員の経験に基づいた助言を得ることによって、第三者からでも理解できるような計画立案や、計画内容の理解を深めるような取組ができるのではないだろうか。



学校事務を取り巻く環境は日々変化しているが、学校現場で働く唯一の行政職員の視点から意思決定の過程に直接かかわり、説明責任を果たせるよう一人一人が各学校で確実に業務を遂行するという、根本的な考え方は何ら変わるものではない。急速に学校事務職員の世代交代が進み、単数配置校が増加するなかにおいても、学校事務職員がこれまで以上に自律的で安定した学校事務運営を確実にいき、学校マネジメントにおける中核となって積極的・主体的に学校経営へ参画していく必要がある。そのためには、校長の監督のもと、多様化する事業予算を総括的に捉え、各学校の教育活動や管理運営活動と連動した、適正かつ効果的で、効率的な財務運営を確立していく必要がある。

研究部では、各学校の教育目標達成に向け教職員と協働し、「運営に関する計画」等と連動した財務運営が図られるよう、今後も引き続き実践と検証を行い、ハンドブック改訂に取り組むとし、研究発表を締めくくった。

## パネルディスカッション

### 「大阪市の学校事務の現状とこれからの考える」

#### 《パネリスト》

近畿公立小中学校事務職員研究会兼京都市立学校事務研究会 会長 大村 一弘 様  
大阪市立真田山小学校 事務主幹 山口 佐知子 様  
大阪市立鶴町小学校 事務主任 中橋 康治 様  
大阪市立瓜破北小学校 主 務 西村 勇哉 様  
大阪市立南小学校 事務職員 堀本 文菜 様  
《コーディネーター》  
大阪市立小中学校事務研究会 会長 板谷 知佳（大阪市立南中学校）

「大阪市の学校事務の現状とこれからの考える」をテーマに、パネリストとして、近畿公立小中学校事務職員研究会兼京都市立学校事務研究会 会長 大村 一弘 様、大阪市立真田山小学校事務主幹 山口 佐知子 様、大阪市立鶴町小学校 事務主任 中橋 康治 様、大阪市立瓜破北小学校 主務 西村 勇哉 様、大阪市立南小学校 事務職員 堀本 文菜 様の五名を迎え、本研究会会長 板谷の進行によって、パネルディスカッションを行った。上半期を振り返っての「私の漢字一文字」を交えた自己紹介のあと、主に「日々の業務等に関する現状と課題」「学校間連携を活用した実践例や課題」「より主体的・積極的な学校経営への参画」の三つの論点について、それぞれのお立場からのご意見をお話いただき、活発な討議が行われた。

#### 【討議内容】（以下敬称略）

##### ○単数配置・複数配置それぞれにおける現状と課題

**堀本**：本校は単数配置のため、学校間連携での諸帳簿点検で、グループの皆さんに書類を見ていただくことで、より確実な事務処理につながっていると思います。個々の対応が必要な家庭が多くなっているのが課題だと感じており、未納通知書等を確認していない家庭もあるので、積極的に電話連絡を行っています。直接話すことで保護者と良好な人間関係を築くことにつながり、信頼を得ることができるのではないかと考えています。ただ、さまざまな場面できめ細やかな対応が必要となっている一方で、一人一人十分な対応ができる時間がなくて困っている状況です。できるだけ効率よく業務が行えるよう心掛けていますが、やはり時間が足りないと感じます。

**西村**：今年度から就学援助加配で事務職員複数配置校になりました。学校現場で一人で後輩を育てるといふことに対して、プレ



ッシャーに感じることもありますが、連携グループがあることにより複数の先輩にかかわってもらえるので、不安を解消することができています。また、自分も先輩としてもっと勉強して成長していく必要があると感じています。複数配置校で勤務するにあたっては情報共有が大事であり、特に仕事の進捗状況や計画を日々共有しておかないと、事務室内で連携の取れた動きができないと思います。



#### ○学校間連携による成果と課題について

**堀本**：成果については、間違いの発見につながったところや、情報共有が活発にできるようになったところかなと思います。つながりもできたと感じており、進学先の中学校と、児童の家庭状況の細かな引き継ぎ等がスムーズにできるようになったと思います。何より皆さんの頑張っている様子を見ることで、自分自身も頑張ろうという励みになっています。どうしても事務主任に頼りすぎているような気がするので、協力してグループ会議を行う方法を考えていきたいです。

#### ○京都市の学校間連携について

**大村**：京都市でも、事務処理能力の向上や学校間の事務の標準化、効率化を目的として、平成28年度より全中学校区単位で学校間連携が本格実施されています。学校事務職員を学校経営の中核的な職員と位置づけ、地域課題の共有を行い、チームとして連携・協働することにより地域密着型の学校間連携を行っています。課題としては、リーダーに課せられる責任が不明確であり、また年齢構成の二極化が進んでいることからリーダーの育成が急務です。大阪市でも同じような課題があると思いますが、それをいかにカバーしていくかが学校間連携の課題であると考えています。



#### ○事務主任の立場からみた学校間連携の現状と課題

**中橋**：学校間連携が定着して、さまざまな課題解決のために成果をあげていると思います。特に情報共有の面については、連携のつながりがとても強くなっているので、日頃から情報共有のスピードが早くなっていると感じています。課題は、堀本さんのお話にもあったように、事務主任以外のメンバーからも、もっと発信や提案があればいいなと思います。学校間連携の実施要綱にも相互の連携について記載があるように、私たち事務主任が中心になって進めていくのですが、事務主任からの発信を待つのではなく、それぞれのメンバーからも積極的に発信してほしいと思っています。また、他のグループの取組や抱えている課題を事務主任同士で共有する機会が少ないと思います。もう少し、事務主任同士が連携して、会議の内容や人材育成に向けてどんな取組をしているか、どんなことで困っているかを共有し、それをグループに還元していけるような機会を増やしていきたいと思っています。

#### ○学校事務職員に求められている資質

**山口**：学校事務職員に求められている資質について、私は二つあると考えています。

まず一つは、事務職員（行政職員）として法規に精通していること、財務事務に精通していることです。そのための知識や理解を絶えず深めてほしいと思っています。連携グループ会議で行う相互点検や事例研究が、特に単数配置の学校事務職員にとっては知識を習得、理解する機会となっていて、事務処理の精度を高めている成果の一つだと思います。二つ目は、行政職員であるとともに、学校事務職員としての特性を活かすこと、つまり学校に精通していることです。職員会議や運営会議などに主体的・積極的に参加をして、学校事務職員の観点から発言や提案ができるように、事務処理能力はもちろん、説明力や企画力も高めてほしいと思います。

### ○学校経営への参画について

**堀本**：私が考える学校経営への参画というのは、学校や保護者、地域の課題を把握し、しっかりと計画して、常に知識を深め、意見を求められた場合にはしっかりと発言をする、そして必要に応じて柔軟な行動をとり、教職員と連携して組織目標の実現に向けて働きかけることではないかと考えています。まずは話をしっかりと聞き、判断する際には行政職としての視点を大切にしつつも、その視点だけに捉われずに全体のバランスを考え、コミュニケーションを活発にしていきたいと思います。



**西村**：主務として事務主任を補佐することや、事務主任に相談しながら連携グループで研修を企画することは、今後、リーダーをめざすために必要なことであり、いざ自分がリーダーの立場になった時のために、今のうちに学んでおくことが重要だと考えています。本日のパネルディスカッションを通して、「より積極的・主体的に参画すること」とは、学校の課題に対して主体性を持って改善策を自ら提言し、教職員一体となって取り組んでいくことだと考えています。

**中橋**：基本的な業務をいかに応用していくかということが、学校経営への参画につながっていくと思います。まずは基本的な業務をしっかり行い、そのなかで信頼関係の構築、コミュニケーション能力の向上が重要になると思います。連携すること自体が目的ではなく、連携での取組を通じて、それぞれの学校事務職員がそれぞれの学校で学校経営に参画するということが目的であり、学校間連携はあくまでそのための手段でしかありません。それを意識して取り組み、目的を見失わないようにしたいと思います。今後は、決裁前の書類を見てアドバイスを言い合ったりするというような、プロセスの段階にかかわってもう一步踏み込んだ助言や指導に取り組んでいきたいです。



**大村**：学校教育目標達成のためには、その学校のカリキュラムと連動した予算策定が重要になるため、まず自校の教育目標や経営方針、教育課程について理解しておく必要があると思います。そのうえで学校経営にあたっては、学校評価への企画・立案、結果分析からの改善策の検討や、学校教育目標を踏まえた学校予算の策定に関して、学校事務職員の専門性を活かして取り組むべきであり、それを教職員・保護者・地域に公開し、共有していくべきだと思います。これから先、教育に携わる者として自覚と責任を持って、情熱を絶やさず、常に学び続ける学校事務職員でありたいと思っています。

**山口**：教職員の一員として、ともに教育活動を進めていく構成員であるという自覚と「学校経営に参画する」「校長のマネジメントを積極的に支援していく」という意識を持ってほしいと思います。私はこれが学校事務職員の魂でありプライドだと思っています。学校事務職員だからこそ、教育目標を達成するために、また学校のさまざまな課題を解決するために、教員とは違う立場から具体的な方策や実現できる手段を提案することができます。今後は、学校間連携を通してそれぞれの学校事務職員が各学校の学校経営に参画するだけでなく、学校間連携で連携校の学校経営への参画を支援していくといった、少し踏み込んだ展開も期待しています。最後にエールをということですが、私が新任研修で言い続けてきたことを。学校はさまざまな職種、年齢の人がいて、若い学校事務職員は悩むことも多いと思うが、みんな学校に通ってくる子どもたちのために仕事をしているので目標は同じ。それを理解し協力して仕事をしてほしい。経験を積むなかで、それがきっとやりがいになる。また、当時私は自分の勤務する学校を子どもも保護者も地域の方々も教職員もみんながいそいそと学校に通ってくるような日本一の学校にしたいと思っていた。大それたことだがそれが私のモチベーションを維持していた。今、みなさんのモチベーションはどこにありますか。学校でやりたいことはありますか。やるべきことが多すぎて精一杯になっていませんか。



些細なことでも何かやりたいことを見つけ実現すること、それが学校の役に立ち喜んでくれる人がいれば自身のモチベーションはあがる。これからも今大会のテーマ「新時代の魅力ある学校づくり」に大いに貢献しましょう。

**板谷**: 本日もいただいたさまざまなお話をヒントにして、最後に山口さんからお話いただいた「やりたいこと」を考え、自分自身にできることは何かということを意識しながら、明日からの業務に活かしていきたいと思います。パネリストの皆様、会場の皆様、本日はありがとうございました。

## アンケート



### ◆研究発表について

予算編成までの流れをいくつかのケースで知ることができて良かった。

小学校と中学校の違いを比べることができるので異動があった時にも参考にさせてもらいたい。

(小学校・6～10年)

予算執行のあり方から予算委員会の構成等、皆さんの実践報告の内容に共感しました。予算調書等の様式も細かな部分まで行き届いたものでとても参考になりました。

(中学校・6～10年)

若年層が増えているなかで、公費の年間サイクルを確認して校内での動き方を考える、良い内容だったと思う。また、新しい気づきや再確認をすることができた。

(中学校・11～20年)

### ◆パネルディスカッションについて

日々の業務や学校間連携における課題には共感できることが多く、とても参考になりました。学校事務職員の基本である制度等の知識を増やし、意識を高めていきたいと思いました。

(小学校・11～20年)

皆さんの取組に元気をいただきました。日頃の業務の再確認と意義、連携会議の重要性など、認識を深める機会となりました

(小学校・21年以上)

さまざまな立場の方のお話を聞いて良かったです。立場によって感じること、考えていることの違い、逆に共通して意識していることなどがわかったように思います。学校事務職員としてきちんと知っていないといけないことがまだまだあると感じ、勉強していきたいと思いました。

(中学校・6～10年)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を今後の研究大会の参考にさせていただきます。

また、市事研ホームページの「資料掲載」ページに研究大会の研究集録等を掲載予定です。(「資料掲載」ページをご覧になるにはユーザー名及びパスワードが必要です。)



## 大会を終えて


第26回大阪市立小中学校事務研究大会をたくさんの参加者のもと、盛会裡に終えることができました。

今研究大会を開催するにあたりまして、多大なるご支援とご協力を賜りました大阪市教育委員会をはじめ、大阪市立小学校長会及び中学校長会、関係機関や関係団体の皆様方に心より深くお礼申し上げます。

今研究大会は、「次代へつなげる学校事務を築く ～ともに語り、創造する 新時代の魅力ある学校～」を大会テーマに開催いたしました。開会行事のあと、研究部より「財務運営サイクルの実践と検証について」と題し、昨年度の研究発表以降、引き続き年間財務運営サイクルについて検討や考察を進め、それを基に研究部員が各所属校で行った実践の報告やそれに対する検証について発表を行いました。その後のパネルディスカッションでは、学校の業務で実践している工夫や苦勞をしている点、またそれぞれの立場から学校間連携を通じて感じていることや取り組みたいこと、課題解決につながった事例などについて討議を交わし、最後に学校経営に参画することへの考えや思いについて熱く語っていただきました。また、学校事務職員を取り巻く全国的な流れや他都市の状況などを聴く貴重な機会を得ることもできました。

いつの時代も学校事務職員を取り巻く状況は大きく変化しています。その時代の荒波に翻弄されることなく進むためには、これまで積み重ねてきた知識や実践を土台としながら、常に先回りし新たな時代を迎える準備を整えておくことが大切だと思います。そのためにも広くアンテナを張り続け、日々の業務を確実に遂行していかなければなりません。今研究大会が日々の業務に活かされ、新時代の魅力ある学校づくりへとつながっていくことを祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

第26回大阪市立小中学校事務研究大会  
実行委員長 小山純大



### 実務研修会 開催 「物品会計事務について」 令和元年11月27日（水） 大阪市教育センター 2階 講堂

本年度の実務研修会は「物品会計事務について」と題し、令和元年11月27日（水）に大阪市教育センターにおいて開催いたします。物品会計においては、適正な管理が求められていますが、昨年度の行政委員会による定期監査でその運用にあたり改善勧告が行われました。このような現状を受け、研修部では業務を行う一助となるよう備品の運用や管理における理解をさらに深め、適正に事務処理を進められるよう、物品会計事務の概要から備品の登録や廃棄、現在高調査等のさまざまな事務処理について取り上げております。多くの方のご参加をお待ちしております。



## 第 37 回政令指定都市学校事務職員研究協議会

令和元年 8 月 19 日（月）～20 日（火）さいたま市浦和コミュニティセンターにおいて、第 37 回政令指定都市学校事務職員研究協議会が開催された。

はじめに、札幌市から第 36 回研究協議会の報告が行われ、全体会 I では、政令指定都市における学校事務領域の状況分析と課題整理、先進事例の共有化として、実態調査を基に各政令市からの報告を行い、その後分科会に分かれて研究協議を行った。

1 日目の第 1 分科会（本部）では、学校事務領域における諸課題の整理と今後の組織運営について、権限移譲後の状況変化への対応と学校事務の新たな展開に向けて、事務研究会としての取組について協議、意見交換を行った。第 2 分科会（研究）では、今後の学校事務の職務についてグループ協議を行い、事務をつかさどるために学校事務職員に求められる役割に対応する研究活動について協議を行った。第 3 分科会（研修）では、各政令市からの質問や課題整理を行い、「権限移譲後の変化に伴い、学校に必要な職となるために」をテーマに研修の持ち方や研究会活動について協議を行った。

2 日目の全体会 II では、「コミュニティ・スクールと学校事務職員の関わり」として文科省の行政説明を受け、分科会報告を行った。次年度は静岡市で開催する予定である。



## 第 51 回全国公立小中学校事務研究大会（岡山大会）

令和元年 8 月 8 日（木）～9 日（金）、岡山シンフォニーホールにおいて、大会テーマを「ビジョンを実現する学校経営戦略—晴れの国から 意識と組織の改革で 学校経営の新たな礎を創る—」と題し、第 51 回全国公立小中学校事務研究大会（岡山大会）が開催された。

1 日目は開会式のあと、「学校における働き方改革について」「教育の情報化の推進について」「新学習指導要領について」「いじめ対策・不登校支援・児童虐待対応について」「特別支援教育の推進について」「地域と学校の連携・協働について」「マイナンバーカードの取得に向けた取組について」「新しい時代の初等中等教育の在り方について（中央教育審議会諮問）」について、文部科学省初等中等教育局 企画官 常盤木 祐一 様より文部科学省行政説明が行われた。

午後からは、全体研究会 I が行われた。第 9 次研究中期計画の初年次となる岡山大会では、「ビジョンを実現する学校経営戦略」を大会テーマに、「第 I 節 ビジョンを実現する新たな学校」「第 II 節 学校経営におけるビジョンと戦略」「第 III 節 ビジョンと戦略における事務機能」「第 IV 節 学校経営ビジョンを実現する事務職員」が提案された。全体を通して、学校事務職員が学校経営ビジョンの策定にかかわり、学校経営戦略を立案することで、教育の質を高めることができると提案があった。

2 日目は 8 会場で分科会が開催された。

本部研究分科会（全事研本部）ビジョンを実現する学校経営戦略

第 1 分科会（滋賀支部）次世代の豊かな未来のために 踏みだそう 覚悟の一步を！

第 2 分科会（四国地区）学校経営に参画する事務組織

第 3 分科会（鳥取支部）転機はここだった。

第 4 分科会（島根支部）ビジョン実現に向けて “楽しまねば Shimane★Ver.”

第 5 分科会（広島支部）学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する学校事務を

第 6 分科会（山口支部）いざ やまぐち維新！学校経営ビジョン実現への第一歩

第 7 分科会（岡山支部）経営参画で晴れの国から課題解決（おにたいじ）！





午後からは、全体研究会Ⅱ・まとめの会として分科会報告とシンポジウムが行われた。分科会報告では、午前中に行われた各分科会の担当者から、各分科会での、ポスターセッション、円卓ボードを使ったグループ討議や各支部の特色を活かしたワークシートを使つての活発な意見交流、研究討議の様子や得られた成果等の報告があった。

シンポジウムでは、「ビジョンを実現する学校経営戦略と事務職員」をテーマに、三名のシンポジストにより意見が交わされた。論点を、①新たな学校の在り方、②法改正から2年半を経過しての検証、③ビジョンを実現する学校経営戦略と事務職員の三つに絞り、会場の各分科会担当者からの意見も交えながら、学校事務職員の現状への意見やエールが交わされた。

閉会式では、全事研の鳥本会長から「本大会で得られた学びや成果を現場に持ち帰ってモチベーションにさせていただき、子どもたちのために汗をかいていただきたいと思います」とあいさつがあり、実行委員長の閉会宣言により2日間の大会が終了した。

大会に先立ち8月7日、令和元年度全事研定期総会が開催された。開会行事のあと、平成30年度事業報告、決算報告及び監査報告、50周年記念事業報告、50周年記念事業決算報告及び監査報告、令和元年度会長・副会長及び監査の選出、常任理事の承認、令和元年度事業計画（案）、令和元年度予算（案）について提案があり、すべて承認された。

## 近畿公立小中学校事務職員研究会研修会

8月27日（火）大阪府教育会館（たかつガーデン）において、「創造しよう！学校事務の新世紀を」をテーマに近畿公立小中学校事務職員研究会研修会が開催された。

開会行事のあと、第14回近畿地区公立小中学校事務研究大会（大阪大会）実行委員会から大会のPRがあった。その後、京都産業大学 現代社会学部 教授 西川 信廣 様より、『学校と地域の連携』の現状と課題—学校事務職員の果たす役割—と題して講演が行われた。“学校と地域の連携”をキーワードとし、特に地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの二つの制度については、学校事務職員が制度を理解し、新学習指導要領の中心的課題である「社会に開かれた教育課程」について、具体的に語るができる体制が必要であると述べられた。また、学校教育を取り巻く環境が変化しており、効果のある学校づくりが求められているなかで、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの設置が進んでいなくても、変化する学校教育の方向性を理解し、中学校区としてのさまざまな取組の環境づくりを、共同学校事務室を基盤として進めるべきであると述べられた。

最後に、子どもの健やかな成長のために、学校教育と地域の連携を強化することが学校経営の機能強化につながることを、そのなかで、学校事務職員の役割が特に重要視されていると述べられ研修会を締めくくられた。



## 他団体日程等

第48回滋賀県公立小中学校事務研究大会	11月15日（金）
大阪府公立学校事務研究会研修講座（第76回）	11月22日（金）
第46回奈良県公立小中学校事務研究大会	12月6日（金）
令和元年度 京都市立学校事務研究大会	12月13日（金）
令和元年度 神戸市立小学校事務研究大会	12月16日（月）

## 研修部 PC 講座

### ～《Vol.11》プルダウンメニュー（ドロップダウンリスト）の作成～

プルダウンメニュー（ドロップダウンリスト）とは、入力したいセルをクリックした時に入力内容の候補を提示するリストのことです。プルダウンメニューを使用すると、繰り返し行う入力作業がミスなく効率的に、半角や全角などが統一された書類を作成することができます。今回は、事業起案書を使ってプルダウンメニューを作成する方法をご紹介します。

#### 【作成手順】

- ① リストを作成する
- ② リストを表示させたいセルをクリックして選択
- ③ [データ] メニューから [データの入力規則] を選択

The screenshot shows the Excel interface with the 'データ' (Data) tab selected. The 'データの入力規則' (Data Validation) option is highlighted in the ribbon. In the spreadsheet, cell B19 is selected, and a dropdown list is shown with the following items: 1年生徒費, 2年生徒費, 3年生徒費, 積立金. The list is enclosed in a red box labeled ①.

- ④ [入力値の種類] はリストを選択、[元の値] はリストのセルをドラッグし、[OK] をクリック

The dialog box 'データの入力規則' (Data Validation) is shown. Under '条件の設定' (Settings), '入力値の種類(A):' (Allow only data from the following list) is set to 'リスト' (List). The '元の値(S):' (Source) field contains the formula '= \$AN\$22:\$AN\$25'. The 'OK' button is highlighted in red.

- ⑤ 款のセルをクリックするとリストが表示される

The screenshot shows the spreadsheet with the dropdown list in cell B19. The list contains the following items: 1年生徒費, 2年生徒費, 3年生徒費, 積立金. The list is enclosed in a red box.

令和2年1月28日(火)  
に大阪市教育センター  
端末第1実習室にてパソ  
コン研修会を開催いたし  
ます。

今回の研修は、エクセルに特化した内容となっ  
ています。詳細は、後日送  
付いたします案内をご覧  
ください。

#### 【編集後記】

今年も残すところあと2ヶ月を切りました。今年には新元号『令和』の発表や消費税率の改正等、さまざまな変化のあった一年でした。自分自身も時代とともに変化し、成長していきたいものです。(T)